



フードロス健康茶 5000 個を図書館で配布 健康とSDGsへの関心呼び掛け

市は1月21日、山本漢方製薬株式会社から健康茶(商品名:効能茶)5245個の寄贈を受けた。そのうち5000個を市内8箇所の図書館・分館で2月1日から利用者に配布する。

配布期間中、図書館では健康関連の書籍を扱う特集コーナーを開設するなど、自身や家族の健康維持・増進について利用者に関心をもってもらう。あわせて、SDGsの理解促進を図るため関連書籍を扱う特集コーナーも開設し、フードロスをはじめとするSDGsの様々な課題を「ジブンゴト」と感じてもらうきっかけも提供していく。

図書館職員は「健康に対する関心やSDGsの理解促進に役立てるとともに、図書館の利用促進にもつなげられたら」と話す。

★今回寄贈を受けた「効能茶」は賞味期限まで期間があるものの、流通にのせることができず消費者のもとへ届かない商品で、山本漢方製薬株式会社からフードロス削減の取り組みの一環として寄贈を受けたもの。

★市では「枚方市SDGs取組方針」を策定し、市民・学生・事業者など本市に関わるすべてのステークホルダーがSDGsを「ジブンゴト」として捉え行動を起こすことで、その達成に向けた取り組みを推進することをSDGsのメインテーマとしている。これまでも、フードロス削減に取り組む企業と連携し、寄贈品の活用を通じてフードロス削減を「ジブンゴト」と感じてもらうきっかけとするなど、SDGsの理解促進を図ってきた。今回の取り組みはSDGs関連書籍を「読んで理解」とともに、フードロスの取り組みを「飲んで推進」することで、「ジブンゴト」と感じていただく機会を提供するもの。

★この取り組みは行政と企業の連携によって社会での広域的な全体利の実現をめざしている株式会社官民連携事業研究所が、山本漢方製薬株式会社と市をつないで実現したもの。民間活力をまちづくりに生かすための「枚方市公民連携プラットフォーム」を通じて提案があった。プラットフォーム内では、行政と民間がそれぞれのノウハウやリソースを活用して、社会課題の解決や社会への新たな価値の創造に向けた取り組みについて対話を行っている。今回は、図書館×公民連携×SDGsにより、頭と体の健康に取り組む。

★山本漢方製薬株式会社は、医薬品や生薬品、食料品などの製造販売を行う愛知県の企業。大阪営業所は枚方市に所在。同社からは、昨年6月にも健康食品青汁5万食の寄贈があり、新型コロナウイルス感染症の影響で経済的困窮などの状況にある大学生への支援につなげた。今後も、山本漢方製薬株式会社と、市の健康増進分野における課題解決に向けたさらなる連携の可能性を探っていく。

<お問い合わせ> 企画政策室 ☎072-841-1254、ファクス 072-841-3039